

《担当者名》小西 恵（非常勤講師）

【概要】

映画は建築、絵画、彫刻、音楽、舞踏、文学に続く新しい芸術（第七芸術）と呼ばれる。映画を鑑賞するスタイルは個人により様々だが、心の問題を考える時、映画は数々の貴重な例を我々に示してくれる。本授業では外国映画の台詞を日本語の台詞に書き換える「吹き替え翻訳」の作業に目を向け、映画の場面を題材にして登場人物の意思と感情とその伝達方法を分析し、コミュニケーションの多様性について考えていく。

【学修目標】

映画の登場人物の意思と感情を想像し、その伝達方法を分析することができる。
意識的および無意識的に用いられるコミュニケーションの手法を認識する。
言語的メッセージと非言語的メッセージの違いと共通点を理解する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	映画とは	映画の歴史と鑑賞方法の変遷についての解説 映画のジャンルについて考える。	小西 恵
2	吹き替え翻訳とは	外国映画、海外ドラマ、および海外アニメの日本語版制作と映像翻訳（字幕翻訳と吹き替え翻訳）についての解説。吹き替え翻訳作業とアフレコ作業についての解説。	小西 恵
3	チラシから読み取れるもの	映画のチラシの分析。言語的メッセージと非言語的メッセージに着目して映画のジャンルとテーマを予測する。	小西 恵
4	予告編から読み取れるもの	予告編の分析と考察。予告編の編集方法とその意図について考え、登場人物の性格とその人間関係を予測する。	小西 恵
5	場面の描写	背景、大道具、小道具などに注目し、それがどういった意図で用いられているかを推測する。	小西 恵
6	登場人物の描写	登場人物の性格と意思、および心情を推測し、分析する。	小西 恵
7	人間関係の描写	登場人物の間で交わされる言語的メッセージと非言語的メッセージを推測し、分析する。	小西 恵
8	まとめ	映画独自の表現方法とその可能性を再考する。	小西 恵

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

授業中に提出してもらった小課題の答案30%、期末レポート70%で評価する。
期末レポートはコメントを付けて返却するので各自確認すること。

【教科書】

使用しない。

【参考書】

使用しない。

【備考】

講師が準備したプリントと映像資料を用いる。

【学修の準備】

【復習】授業で用いたプリントに再度目を通し、映像資料を見て、再考すること。返却された小課題のコメントに目を通し、再考すること（80分）

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

本授業は、臨床心理学科における「社会の様々な分野においての心の問題」に目を向けさせ、「患者の抱える問題に共感できる感性」を身につけさせることを目的としており、心の問題にかかわる職業人として必要な幅広い専門的知識を修得する、という臨床心理学科のディプロマ・ポリシーに適合している。

【実務経験】

映像翻訳者（映画、ドラマ、アニメ等の日本語版制作に携わる吹替翻訳者）

【実務経験を活かした教育内容】

映像翻訳者としての実務経験を活かし、映像資料を用いた実践的な教育を行う